

蒲原（かんばら）コレクション（有田町所蔵）

蒲原コレクションは、蒲原権（かんばらはかる）氏（1896～1987）の個人コレクションで、有田町歴史民俗資料館の創立に関連して 1976 年に有田町に寄贈されたものである。蒲原氏は有田町出身。1980 年に有田町の名誉町民となり、同年、九州陶磁文化館が開館した際に、コレクションが文化館に移され常設展示されることになった。

有田焼の蒲原コレクションのすべては欧州で販売されたものである。その中には、欧州輸出市場向けに 17～18 世紀に有田で生産された磁器が数多くある。江戸（えど）時代（1603～1867）には様々な様式の有田焼が欧州に輸出されたが、中でも人気があったのが金襴手（きんらんで）様式である。染付に多色彩（赤と金）の上絵付を施してあるのが特徴の金襴手は、手の込んだ豪華なものである。輸出用に作られたため、国内市場向けに作られたものとは形が著しく異なる。洋食用に作られた器には、A、O、S の頭文字（オランダ語でそれぞれ酢、油、ソースを意味する）の入った調味料入れセット、コーヒーポット、蓋付きの椀と受け皿などがある。これらの磁器は欧州に届けられると、金具を取り付けて壺をキャンドルスタンドやシャンデリア、ランプとして利用することもあった。